

アルパック ニュースレター

地域計画・建築研究所

迎 春

平成3年元旦



地中海風の洒落たりフレッシュ施設「パルキ・サルデーテ」

アルパック ニュースレター もくじ

- ・あけましておめでとうございます…………… 2
- 特集「健康について」
- ・パルキ・サルデーテがオープンしました…………… 5
- ・町の町医者とドゥー・タント・ネットワーク論…………… 6
- ・南山城村のトライアル…………… 8
- ・九州国独立!!初代議員体験記……………10
- ・年中行事になった半日ドック……………11
- ・アルパックセミナー「生活のスタイルと
健康問題について考える」……………12
- ・うまいもの通信⑤・連載化によせて……………14
 - ・鹿児島の特産物……………14
- ・新刊旧刊書評紹介「家庭に於ける実際の看護の秘訣」……………15
- ・まちかど……………16

NO. 45

歴史の教訓を生かして

代表取締役会長 三輪泰司

一昨年の初めに「天下大乱」と時代予測をしました。まさに、予測を超える事態が、次々と起こっています。



歴史に学ぶポリシー 昨年6月、撤去直前のベルリンの壁を越えて感慨を深くして帰ったら8月、イラクのクウェート侵入です。各国の行動を見ますと、1930年代に中欧とアジアで起こった事件とその時の国際的な対応やその後のなりゆきから徹底的に学んだことが判ります。歴史の教訓を生かしていないのは、我が国だけのようです。歴史は社会正義を断固として貫くことの大事さを教えています。

本年、アルパックは創立25周年を迎えます。節目を迎えるにあたって、まず昨年、就業規定から分離して「倫理規定」を制定しました。その第一項はこのことをうたっています。昨年の年頭に表明しました「羅針盤」を持つことを実行しはじめた次第です。

委託者とともに 日本の中の、小さな存在ですが、その業務の性質からいって、アルパックは地域の将来に大きな責任を負っています。

情報と技術が発達し、その上、投資が大きくなってきていますので、地域計画の成否が早く現れるようになりました。

“欠陥計画”をつくらぬ厳しさを製造業に学ぶとともに、製造業と違うのは、委託があって業務が成り立つことで、そのためには委託者とともに強くならねばならないと思います。シンクタンク部門、コンサルタント部門に続いて、建築部門でも研究・学習会を積極的に展開する所存です。よろしく、ご指導ご支援を、お願い申し上げます。

創立25周年にむけて

代表取締役社長 金井萬造

新年にあたり、ご挨拶を申し上げます。本年もよろしく願いいたします。



昨年、業務体制の整備、作業環境の充実、将来に向けての教育等の基礎条件の確立に向けて努力を傾けた一年でした。

さらに、大阪事務所、東京事務所の移転拡充、新入所員の増加と対応、まちなみゼミ、海外リゾート調査団派遣、各種研究会など情報発信の取り組み、所内会議の充実と新体制の整備と多くのテーマが複合的に発生した年でもあったと思います。

若い新入社員を多数迎えて、中堅・若手の協力と連携がアルパックの中期展望の重要課題になることを痛感した次第です。何かと皆様方に御迷惑をおかけしてきたことにおわびするとともに、さらなる御厚情をお願いしたいと念じております。

本年は、アルパック創立25周年にあたりますので、この四半世紀を振り返り、中期展望を組み立てる糸口を見つけないと思っています。また、記念イベントと本社・京都事務所の拡張を企画したいと考えています。

さらに、教育研修、健康と福利厚生、企画開発を含む積極的営業、技術力向上など多面的な課題にも手をつけて総合的経営能力の基礎づくりをめざしたいと念願しております。

新体制3年目に入るにあたり、一応の体制確立と社会経済の変調にも対応できる原点に立ち帰った取り組みで所員一同、努力してまいりますので、皆様方のより一層の御指導のほどお願い申し上げます。

21世紀のカウントダウン

名古屋事務所所長 尾関利勝

デザイン博1周年を迎えた1990年の名古屋は、当該年以上に忙しい年でした。中でも10～11月は連日デザインをテーマとした国内・国際会議・展示が開かれ、相次ぐ参加要請の対応に苦慮したほどです。アルパック名古屋では、委託業務の遂行はもとよりアフターファイブで名古屋城本丸御殿再建をめざす「金しゃち連」や、夢おこしにとりくむ市民運動ネットワーク「夢いちば」の開催、住みよいまちづくりを考える「名古屋住環境会議」、ヒューマンネットワーク団体「SAS」などの事務局活動にささやかな汗を流しました。21世紀まであと10年のカウントダウンをしつつ、本年も名古屋都市圏の魅力ある地域づくりに、町の町医者として努力していきます。宜しくお願いします。

豊かな生活の実現を

京都事務所所長 山口繁雄

昨年初秋、京都事務所の主催で「東西ヨーロッパにおける自由時間政策視察調査」を企画・実施致しました。西ドイツでは、週末やアフターファイブのための「クラインガルテン」、バカンス用の「温泉リゾート」や「農村セカンドハウス」を視察し、ハンガリーのブダペストでは、市街地内に整備された「温泉プール」を見てまいりました。いずれも豊かな市民生活を象徴するもので、ヨーロッパ社会の「豊かさ」を実感してまいりました。

我が国でも、豊かな生活の実現が今日的な課題になってまいりましたが、今年は、我が国固有の生活文化施策を、京都の街で考えてみたいと思います。

所員一同、今年も頑張ります。暖かい叱咤激励をお願い致します。

OBPから新たな飛躍をめざして

大阪事務所所長 杉原五郎

大阪事務所は、90年4月、天満橋からOBP（大阪ビジネスパーク）に移転し、7月の移転披露パーティーには、200名を越える各界の方々のご参加と多数のはげましのお言葉をいただきました。

90年代に入り、時代は確実に動いておりますが、アルパック大阪事務所としましては、3部1室30名余の組織力を発揮して、社会的要請に対応しうる事務所づくりを進めていきたいと考えております。具体的には、住宅、環境、市街地整備、交通、都市景観、ウォーターフロント、建築計画等の今日的な課題に対して、斬新な視点と方法で鋭く切り込んでいきたいと思っております。このため、計画技術力の向上、人材の確保と育成、アルパックセミナーなどによる先端情報の発信などに力をいれていく所存です。よろしくご支援ご指導のほどをお願い申し上げます。

事務所設立4年目を迎えて

東京事務所所長 斎藤郁男

東京事務所も4年目を迎えます。この間、本社や大阪事務所の所員をはじめとして、東京首都情報や事例を訪ねて来られる多くの方々に寄って頂きました。

日常の業務に埋もれながらも、そうした情報を逆に教えてもらいながら、いよいよ首都圏の大きさ、生活諸相のモザイク模様の面白さをかみしめております。

こうした感興を、皆様にお返しさせて頂かなくてはと思いつつも、これまでついついなまけて来てしまっておりました。3年の節目にあたって、皆様の東京イメージのガイド役やら、実相の解説役やら、少しでもお役に立てるようになりたいと存じます。

新年あけましておめでとうございます。

(株)アルパック・

インターナショナル代表 霜田 稔

ＡＩＩ(アルパック・インターナショナル)も昨年創立して以後、工場跡地のリストラ、メカトロ工場、新都市コンセプト、さらにアルパック各事務所との応援と連携の上で、広島、愛知、九州福岡、北海道の学研都市づくりのお手伝いを行いました。いま地方では、新しい学研都市づくりにむけた創意が結集しつつある感がいたします。今年から、仏教大学で社会学特論といった講座を受け持ち、これまで20年の間に参加した計画づくりの総括の機会として自問自答の講義となっています。過疎でも過密地域でもかつて我々はもっと悲観的予測でしたが、人がいれば、地域づくりは継続し、担い手のない計画は、約20年の期間に殆ど消えてしまいます。今年の景気の先行きは不安はありますが、何とか楽しい年にしたいものとおもっています。皆様の御健勝をお祈りしますとともに、今後とも宜しく御指導賜りますようお願いいたします。

暮らし・住まい・京のまち

都市居住文化研究所代表 道家駿太郎

昨年の7月から都住研の活動に重点を置くようになって早や6ヶ月が過ぎましたが、お陰さまで業務の幅も広がり、スタッフの川上哲、神島和代のキャラクターと能力が発揮されて、事業の企画から各種調査の事務局活動までと新しい展開も始まっています。

研究会活動 「地域すまいづくり研究会」を市内10地区で、各地区ごとに月1回、6ヶ月連続で開催。本年はこの成果を出版する予定。なおこの研究会から「健康都市・京都を考える市民100人懇談会」へメンバーを推薦

して参加しています。また、「住まいづくり・ミニ講演会」を毎週1回、延べ約50回開催し、1千人くらいの婦人方に京都の暮らしと住まいについて講演しました。本年も20～30回程度予定しています。

出版 「京都から京都へ」(北条誠監修)の制作出版を行いました。京都市内の書店で発売中。今後も年一冊程度のペースで出版を考えています。

調査企画業務 リゾート開発や、施設企画が中心。実施のためのコーディネートも忙しくなっています。「楽しみつつ仕事をする」ことをモットーに本年ものんびりやっていきたいと思っております。

九州地域計画研究所一同より

九州地域計画研究所副所長 永田伊津夫

私どもが福岡市に事務所を設立して以来、早いもので14年が経過し、今年は15年目という一つの区切りの年でもあります。

これまで、多少とも地域のお役に立つ、何かおもしろいことがやれるコンサルタント事務所を目指してやってまいりました。10年目を経過して、それまでの多くの方々の御指導、御協力を得ながら、また所員も様々な経験を積み、総合的に多面的、主体的に計画に携わることができるようになり、多少は御期待に沿えるような事務所として成長してきたのではないかと考えております。

これからは、計画の目標はあっても具体的内容、方策が不透明な業務がますます増加していくものと予想されますが、様々な方々と協力しながら、地域にとって有用な計画づくりに努力するとともに、九州の活性化にも微力を尽くしたいと考えています。今年もよろしく御指導のほどお願い致します。

パルキ・サルーテがオープンしました

渡辺千秋

去る11月18日曜日、大津市の雄琴温泉にパルキ・サルーテがオープンしました。設計は京都事務所の北条、前田恭を中心に、クラスターテックの垣内氏、雄設計事務所の鷯林氏等の協力のもとにすすめられました。

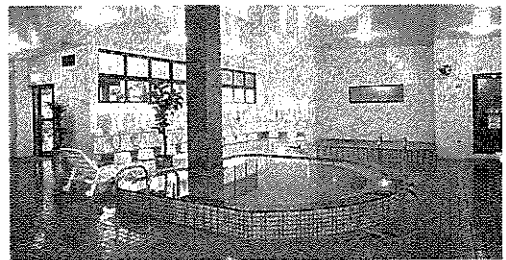
「パルキ・サルーテ」とは、イタリア語で「健康公園」の意味です。地下1階、地上2階建て鉄骨造、延床面積約3,850㎡の建物は、漢方薬湯を中心とする8種類のお風呂と整体マッサージルーム、健康相談室などに加え、宴会施設やレストラン、ムービーシアター、ゲームコーナー、レストルーム、小座敷などからなる、その名の通り保養と娯楽の機能を合わせ持った施設です。

薬湯は、疲労回復・ストレス解消、冷え性や足腰の痛みを軽減するなどの効果があるといわれています。オープン当日、垣内氏をかこんで京都事務所の若手を中心に、「薬湯体験 プラス カラオケ の集い」と銘打って見学会を行いました。来館者は、やはり家族連れを中心に20代から50代くらいの方が多く、館内での共通の衣装である色鮮やかなムームーに身を包み、くつろいでいただいているようでした。私達もさっそく、薬湯を始め露天風呂、ジェットバス、バイブラバス、打たせ湯、サウナなどを順々に楽しみました。湯煙の立ち込める広々とした浴室でゆったりと湯につかるうちに、心身ともに和らいでいく実感がありました。また、日頃の仲間とお風呂につきり、上がった後素足ではしゃぎ回るのも心楽しいものでした（全館じゅうたん敷、安全面からもスリッパは履きません）。おも

しろいことに楽しみ方は人それぞれです。お風呂にも入らずカラオケに熱中する人、整体マッサージに身を委ねる人、映画を観る人。24時間営業ですので、和室やレストルームで仮眠をとり、夜を越す人も少なくありません。真夜中のフロントに一人二人と訪れる人、帰る人が絶えませんでした。

近年の健康食品、スポーツセンター、フィットネスなどの隆盛は単なるブームに終わらず、心と身体の統合を図るウェルネスの考え方へと継承されました。様々な産業の発達は、多くの利益と不利益を生み出しました。多数の人が抱えているといわれるストレスは、社会の側面を映しだし、また、諸病の根源として現代人を脅かしています。そのような中パ

健康のホットな泉・お風呂コーナー



ゆったりとしたリクライニングシートが並ぶ
レストルーム



ルキ・サルーテのような薬湯センターが現れたのは10年ほど前のことです。高齢化・余暇社会を迎えるにあたり、確実に利用者を増やし続けている薬湯センターとはどのようなものか、設計に先立って全国の先行施設を事例調査しました。立地条件、利用者属性、管理・運営システム、設備、サービスなどハード、ソフト両面にわたる視察とヒアリングによる

分析にもとづき、ホテルでも銭湯でもない、この新しいジャンルの施設は計画されました。調査を進める中、時間に追われ、健康に不安を抱えながら、心と身体へのいたわりを求め、仲間を求める現代人の一つの像を見る思いがしました。

(京都事務所 わたなべ ちあき)

町の町医者とドゥー・タント・ネットワーク論

－健康な都市・地域づくりのために－

尾関利勝

町の町医者

都市や地域づくりを仕事の進めかたや地域との関係から見て、私達のようなローカルに根差すシンクタンク・コンサルタント・設計などの仕事・職能を町の町医者と考えてきた。

この仕事は一面では極めて医者によく似た仕事でもある。例えば、かかりつけの医者のように、患者としての地域を産まれた時から良く把握し、既往症を始め地域の変遷についてのカルテでもあるデータベースを持ち、何か地域の変動があれば、問題の所在をすぐに解明し、必要な対策を的確にうつ。このような問題対応型の仕事は、ほとんど町の町医者の目で見える感覚でもある。地域づくりの仕事が単に行政需要だけでなく多面的な地域データとヒューマン・ネットワークをベースにしていなければ展開しえない状況になっている中では、ある程度の人口集積に対する町の町医者の存在が不可欠になっている。

「グローバル」な視点

都市・地域づくりには「グローバル」な視点が欠かせない。「グローバル」とはグローバルとローカルを折衷した私の造語である。その一方で国際化する日本と世界の動きの中で地域の問題をとらえるグローバルな視点との両立が、自己存在証明を求める地域間競争や個性化、差別化と言ったアイデンティティ

一指向の中での現代的な都市・地域づくりに不可欠になってきている。

ドゥー・タントとしての職能

以上の提起は、私達の職能展開における問題意識の現代的なあり方として位置づけられる事柄であるが、一方で行動の規範・あり方も大きく変化してきていると考えている。

事務所の紹介パンフレットの中で、アルパックが「ドゥータイプのシンクタンク・コンサルタント・デザイン事務所」の3つを合わせ持つことをその特徴の一つとして、紹介させていただいた。職能が複合化してきており、地域づくりの議論や思考に「政策から現場まで」の基礎的認識が不可欠になってきている。加えて、報告書の作成だけを目的とする業務から、実態的な行動発生への脈絡を持つ業務展開が増えてきており、そこでは、報告書には現し切れないヒューマン・ネットワーク活動が無ければ不可能な事柄が多い。そのような業務展開のためには、日常ネットワーク活動が基本的条件になる。このような行動は、まさにローカルに根差した町の町医者活動の中からしか産まれてこないと考えている。最近ある県から「ドゥー・タンク」として市町村にご紹介いただく機会を得た。ドゥー・タンクとは行動するシンクタンクと言う意味の造語である。私は都市・地域づくりの専門家・

プランナーの素養としては、基礎のしっかりしたエンジニアリング・コンサルタントとしての性格も不可欠であるから、以上の視点をもとにドゥー+シンクタンク+コンサルタントを複合し、省略して「ドゥー・タント」という新造語を使うことにした。

まちづくりの発展途上国・日本

都市・地域づくりを町の町医者からの視点から見ると、日本はまだまだ発展途上国だ。つまり、日本の国土全体に対しては、まだ圧倒的に町の町医者が不足しており、ある意味では三大都市圏の他はほとんど、無医村地域が広がっていると言っても過言ではない。もちろん、専門的プランナーとしてのシンクタンクや計画コンサルタントだけがこうした町の町医者としての仕事にかかわると言う認識だけでは不足している。例えば、地方の村では役場の企画や建設、商工観光課、農協や商工会、地場工務店・設計事務所などが、医療体系で言えば、診療所や保健所とか生活指導員的な役割を果たしていると見る事もできる。様々な現代的な地域課題を抱える国土と地域の状況に対応していくためには、このような無医村地域を解消していくことが必要だ。

ドゥー・タント・ネットワーク形成へ

21世紀の成熟した健康な地域社会形成にむけての一つの提案を示したい。提案と言うよりも、そうなるであろうトレンドと考えている。

① どんな小さな市町村にも町の町医者が必要だ。

市町村の人口規模によっては、専門的ドゥー・タントの職業が成立する経済的基盤がないこともあり得る。このような場合には、地場の設計事務所や工務店などがこうした役割をはたすべきだろう。言わば開業医または診療所・保健所レベルの町の町医者機関として

位置づけられるものである。

② 広域市町村圏程度のローカル・ドゥー・タント

総合計画や地域開発計画などの行政需要や商店街指導、地域再開発等の需要からみて、一つの推論として、広域市町村圏程度に小規模専門医集団としてのドゥー・タントが必要だろう。仮に都道府県単位に5カ所程度とすれば、全国で約200程度の数になる。そこに5人のスタッフがいれば1,000人必要と言うことだ。

この部分では、愛知県の東三河地域開発センターなどがその典型例だが、全国的にはまだまだ少ない。ほとんど一から育て始めなければならない状況と言って良い。今最も重視される組織と人材育成の課題がこの部分に有ると見ている。

③ 地方中核都市、大都市圏中核都市の専門医、総合病院としてのドゥー・タント

現在、活動している計画系コンサルタントがほぼこのレベルに当たるものと考えられる。例えば都市計画コンサルタント協会に加盟している組織は約150社程度である。この他、シンク・タンクや都道府県の設立によるシンク・タンク、金融機関や経済界によるシンク・タンクなどが地域づくりにかかわっている。その数は、コンサルタントと合わせて、おそらく全国で200～250程度になるものと考えられる。この部分についても、この数年の極端な業務需要の拡大と人手不足の著しさから見て、まだまだドゥー・タント組織と人材が不足する状況と見ている。データの裏付けのない経験的直感であるが、名古屋の場合でも、その個々の組織の評価はともかく、ここでいうグローバルな立場で業務展開していると見なされる計画系コンサルタントとシンクタンクが現状で4～5組織という状況から見て、

最低で現状の倍の10社位は必要だろう。つまり、社会的に見れば、まだまだ育てて行かなければならない状況と言って良い。ともあれ、この部分は、不足しているというものの、その基盤が存在しているから、ここをベースに考えていけば何とかなる状況と言えよう。

④ ドゥー・タント・ネットワークの構築

以上のようなヒエラルキーの組織人材構成ができれば、地域の町の町医者、ローカル・ドゥー・タント、専門・グローバル・ドゥー・タントが一体になって、グローバルな都市・地域づくりが展開できる図式が描けること

となる。この場合、図式的に3人の人間である必要は必ずしも無い。立場を兼ねる器用な人がいれば、2人でも1人でもよい。

以上のような図式は一方で、医療体制のシステムと極めて類似することがお分かりいただけるのではないかと。年の始めの夢物語りではあるが、このようなグローバルなドゥー・タントネットワークの構築に向けての模索とチャレンジをアルパックとしても、今年も努力し続けていきたいと考えている。

(名古屋事務所 おせき としかつ)

～泰さんのあんな京都 こんな京都①～ 京都府唯一の「村」南山城村のトライアル

——発想の基盤を農業において——

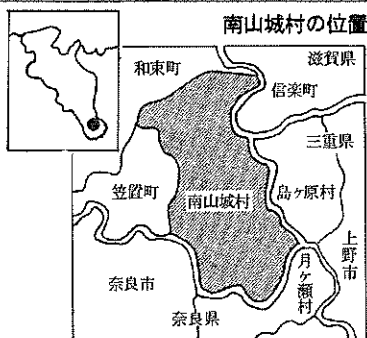
山田 泰 造

はじめに

編集部から京都府の市町村を廻ってみてはその勤めがあり引き受けることにしました。府の東南端にあるただ一つの「村」南山城村から始めることにしました。正面ロビーの中央にトロフィーが飾られ、村同士の姉妹縁組を祝福している様子が目立ちます。その珍しい組合せに興味を覚えながら村長森山茂樹氏にお会いでき、2時間余り村制の基本としての農業に対して熱い思いをこめたお話を拝聴し、深い感銘を受けました。

南山城村の概要

昭和30年4月大河原村と高山村が合併し南山城村となりました。面積は64.2km²、人口4,000人、滋賀・三重・奈良の三県と境を接し、四方を山で囲まれ、大半が山林に覆われています。東から木津川が、南から高山ダムをへて名張川が流入し、村の中央部で合流し笠置に向かいます。この木津川沿いに国道163号とJR関西線が走り、交通と経済の動



脈となっています。農業は水田面積が0.46/戸と零細で、茶・しいたけ(村農家所得の1位・3位)トマト等が主なもので他に見るべき産業はありません。

南山城村のトライアル

村の新しい試みを2～3紹介します。

(1) 映画村との友好提携……自治体である南山城村と企業である東映太秦映画村とが友好村提携の調印式を行ったと報道(京都新聞平成2年8月6日)されました。村は合併35周年を、映画村は開村15周年を迎え、京都府に二つしかない村同士という珍しい縁組が、村

の申し出により実現したのです。村は映画村に茶・しいたけ・木材の工艺品等の即売コーナーをもうけ、また、府下では有名な田山の花踊り（府の無形文化財）を映画村で公演することにしています。一方、映画村は南山城村が時代劇のロケ地として適していることからロケに対する村の協力を期待しています。森山村長は「映画村に年間200万人の見物客が来ます。この人達に村の土産品を売り、踊りを見せ農家収入の安定化と村のイメージアップを図るのです。」とこの友好村提携のもたらす効果に大きな夢を託しています。一般的に地方の観光はその自然を対象にして、いかに観光客を誘引するかが極め手とされていますが、村は年間200万人もの集客能力のある全国的に有名な映画村と提携し、その場をかりて村の農業と知名度を高めようという南山城村でしかできない積極果敢な試みに挑戦したのです。この試みがどう実現化し長続きするか注目に値します。

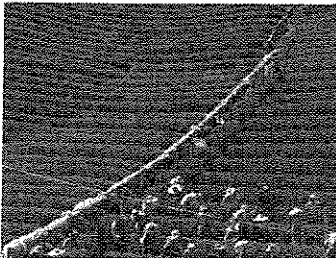
(2) 野殿・童仙房地区計画……村の北部に標高500m程の高原があります。野殿は江戸時代に柳生藩の領地となり、家老屋敷も現存しています。また、童仙房は明治2年京都府の手により開拓が行われ、同4年10月には126戸、156人が入植、田畑約500haが完成し、度重なる盛衰はあったものの現在60戸、300人が茶づくりに励んでおり、素晴らしい茶園が延々と展開しています。夏は気温が平地よ

り5～6℃も低く、爽やかな涼風と広大な高原の眺望により「関西の軽井沢」と呼ばれ、避暑地としても絶好です。村は抑制野菜・トマト・山菜づくりに懸命ですが、さらに学研都市関連の研究所や住宅・別荘を誘致し、新しい村づくり構想を考えています。地形図を見て、木津川・大河原—山なみ—野殿・童仙房という地形が神戸—六甲山—有馬を示唆するものがあるのではと考えます。また、この地区へのアクセスが大きな課題ですが、昭和61年に完成した南山城横断林道がこの地区内を横切り、隣り村の三重県島ヶ原村で国道163号と直結しており、前途には明るいものがあります。

(3) 駅前整備事業……大河原駅前に黒川紀章氏の設計による文化会館が目下建設中です。音響効果に配慮し、管弦楽の演奏も可能で、村民が本格的な音楽に触れるよう、さらに上野や名張の市民にも来聴をとという願いです。また、月ヶ瀬駅周辺は最も土地の有効利用を図る必要性のある地域で、昭和55年駅裏には月ヶ瀬ニュータウンが誕生し現在既に200戸、650人が入居してします。さらに、多くの計画案があり、村は早急に土地利用計画を決定すべく鋭意検討中とのことです。

(4) その他……村には既存ゴルフ場が、ダム両岸の丘陵地田山・高尾地区に各一カ所あり、後者はリゾート村として各種スポーツ施設やホテル、ボーリング場も備えた大規模なもの

南山城村の茶畑



南山城村総合文化会館の完成予想模型



高山ダム



です。村は今後ゴルフ場の新設を認めないという基本的な方針を出していますが「もっと農家収入につながるものを」という気持ちが強く働いており、農家収入の増加を意識して村政をすすめているのを痛感しました。

村が農業を基盤において次々と新しい試みに挑戦する姿に手堅い、地についたものを感じます。このような生氣あふれる姿勢を可能にしたものは何であったのか。村のバイタリティーを生み出したものは何であったのか。やはり昭和44年に完成した高山ダムの効力によるものと考えます。資料によればダムがで

きる以前は大体5年に一度は災害に見舞われ、その都度大きな被害を出していたのが、昭和44年以降一度の浸水もなく、人口は僅かではあるが増加を続け、大河原駅前には官公庁や商店の集積が始まり、中心街が形成されつつあります。村民の生命と財産が安全に守られ、安らぎと蓄積が可能となり、民力が培い育てられてきたからだと思います。近く、21世紀に向けての村の総合計画が発表されるようですが、果敢に挑戦し、21世紀に向けて大きくはばたくことを期待するものです。

(京都事務所 やまだ たいぞう)

さんきょう 近況 さんきょう 近況 さんきょう 近況 さんきょう 近況 さんきょう 近況

九州国独立!!初代議員体験記
九州地域計画研究所所長 糸 栗 貞 喜

少々、センセーショナルな見出しをつけたが、正確に言うと「分権、連合そして自立」をテーマとした九州連合議会が開かれ(1990年11月29日福岡市、福銀本店大ホール)、その一議員として私が参加したということのレポートである。

議会は、議長を高橋良平九州大学学長が務め、議員には九州7県から4人ずつが選ばれた28人で構成し、委員には九州にある国の出先機関の局長(行政監察、農政、通産、運輸、財務、郵政、建設、電気通信などの各局長)と、知事会(副会長平松大分県知事)、市長会(桑原福岡市長)、九州・山口経済連合会、九州商工会議所、九州経済同友会、JC九州の代表が並び、それぞれが積極的に発言し、討論を盛り上げた。

このイベントの主催は九州21世紀委員会など九州を代表する機関で、実質的事務局は西日本新聞がつとめた。

ねらいは、この機会を契機に、一層の分権

化を進め、新しい地域づくり——九州新段階への前進をはかることで、議員の人材・活力、幅広さなどもあって、極めて多岐にわたる内容が短時間(1日のみ)に討議され提案された。

ここまで読まれた方は、「なぜオマエのようなものがそんな議会に出られたんだ」とウズウズしておられると思う。その経緯(いきさつ)を説明させていただく。経緯といってもはっきりわかっているわけではないが、ある日、西日本新聞社から電話がかかってきて、「中央集権の弊害がいわれ、地方分散がいわれているが、それに対応する具体的活動として、日本の国会開設100年記念日に、九州の全体が一堂に会する連合議会をやりたい。ね

九州連合議会に参加の糸栗所長
(「西日本新聞」11月30日)



らいは分権化の動きを進めることにあり、ついではその議員の1人として出席してほしい」という話があった。「私は九州に根づいたシンクタンクになろうとしているので、黒子の役割ですからあまり表に出るのはどうか……」といったが、推薦する人もいるのでということで、出席することになった。

その推薦理由というのを、私の自己紹介にもなるので列記する。

- とにかく変なことをよく言っている。
- 地方分散という散らばる話はきらいで、地方自立、分立などといって地域内発型の地域づくりをいつもうなっている。
- かつての九州の玄洋社に興味をもっている。
- 風船飛行機の開発による、九州内の交通革命を夢想している。

などで(あとで本人から聞いた話)、そういう人間なら、1人ぐらい九州以外の出身の人間もいる方が面白いということで、きまったようである。

議員は各県4人の合計28人であったが、極めて多彩な顔ぶれで、人材の豊かさを感じた。例を上げると、柳川の水辺環境を守る運動をした市職員、民話の収集家、地元のテーマでオペラをやっている脚本家、からいも交流財団の人、有田焼の企業家などなど、28人の方々が背負っている背景の豊かさに感激した。

連合議会自体が、地方分権運動の画期的な試みであり、内容を紹介したいが、長くなるので省略する。関心のある方は、西日本新聞の特集が2度(それぞれ8ページぐらい)と11月29日付朝夕刊、30日付朝刊に詳報が出ているのでお送りします(九州地域計画研究所へ連絡して下さい)。

なお、当日は関西経済連合会の宇野会長と北海道横路知事から連帯のあいさつがあった。

(いとりのり さだよし)

年中行事になった半日ドック

坂本 一秋

アルパックでは3年前より全所員で年1回半日人間ドックを受けています。きっかけは創立以来20年を過ぎ、20代から50代まで所員の年令層が幅広くなり病気で入院したり手術したりする人が出てきたこと、出張や現地調査が多く時間的に不規則な労働形態であり無理をすることが多いこと、通常の健康診断ではほとんど病気の人が発見できないことから人間ドックを始めました。

各事務所によって、病院が違うので、検査メニューはやや違っているようですが以下のとおりです。問診、計測、内科診察、血圧測定、尿検査、血液検査、眼底検査、心電図検査、胸部レントゲン検査、肺機能検査、胃部レントゲン検査、腹部超音波検査、便潜血検査、子宮がん検査(女性のみ)。

毎年1~2名程の病人が発見され入院し手術を受けたり治療をしたりしています。また、まだ病気にはなっていないけれども自分の体の傾向を知り、煙草をやめたり酒を控えたりする人など、健康に注意する人が増えており、かなりの効果がでています。一般の健康診断を人間ドックに変えて一番良かったことは、受診率がほぼ100%になったことです。一般の健康診断は受けても何も出て来ないということで、仕事が忙しいこともあり60%くらいしか受けませんでした。

私ごとで恐縮ですが、今回の人間ドックで異常ありということで5日間の検査入院をしました。一番辛かったことは、一定期間自由に動けなかったことで、これは注射や軽い手術よりも辛いことだと実感しました。健康ということは自由に動けるということで、これは人間にとってとても大事なことであり、こ

の健康を維持することは、年を取るとともに努力を要し、しかもその努力が質量ともに増えていくということが今回の経験でわかりました。幸い検査の結果は異常なしでした。

人間ドックは、一般の健康診断よりも20倍近くのお金がかかりますが、人間ドックは病気に対して事前に予防するチャンスを本人に与えてくれるすばらしい制度です。アルパックの全社員が、この人間ドックの警告を心にためて今後も頑張っていくと思います。

(大阪事務所 さかもと かずあき)

第1回アルパックセミナー

生活のスタイルと健康問題について考える
佐野紀美子

アルパック大阪事務所では、所外の専門家の方々との情報交流を通じて、所員の視野を広げ、人的ネットワークを強化していくことを目標に各種の「アルパックセミナー」を装いも新たに企画していくことにしています。

1回目のセミナーは、「健康問題」をテーマに11月21日に実施しました。アルパックでは、全社員を対象に人間ドックを毎年実施していますが、今年の間人間ドックでは再検査を受けた者もいるようです。社会的にも健康に対する関心が高まっており、もう一度、専門家の話を通して現代人の生活スタイルと健康

問題について見直す機会を持ちたいと考えました。

講師は生野区共和病院副院長の片村永樹先生にお願いしました。先生は、季刊誌「おおさかの街」で健康シリーズ「健康ですか、あなた」欄を担当されており、当日は幅広い視点から健康について貴重な提案を頂きました。

健康はかちとり、まもるもの

健康を獲得し維持していくためには、環境を守ること、知識を得て実践すること、地球のいのちを尊び楽天性を身につけることの3点が重要だそうです。

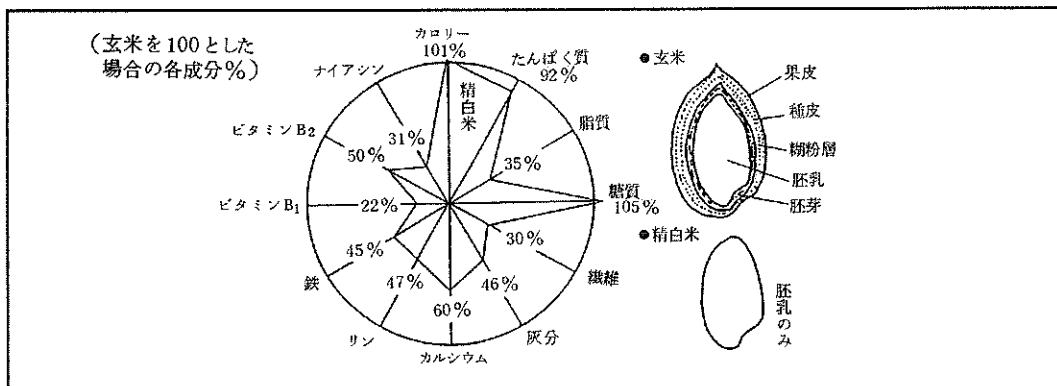
とくに、地域計画と建築設計に携わる私達にとっては、健康を守る視点から地域環境づくりや建築物の設計に真剣に取り組んでほしいと声を大にして強調されました。

元気で長生きするために

一番のおすすめは、玄米ご飯だそうです。玄米に含まれるマグネシウムというミネラルがガンにも効きます。非常に甘くて美味しいんだそうです。(下図参照)

それから、食べたら出しましょう。朝一番に出してから、朝食をしっかりと食べてバリバリ働きましょう。もよおしてからでなく、出そうという意識が大切だそうです。

ところで、「ニューマン」をご存知でしょ



きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況

うか。健康を自己管理できる人のことです。禁煙、正しい食生活、適度な運動など自分の生活リズムをつくるのが大切だそうです。

しかし、個人の健康努力には限界があります。環境汚染は大問題ですが、特にモーターゼーションの抑制が重要です。自動車の排気ガス中には肺ガンの原因物質が大量に含まれています。また、ディーゼルエンジンの排気ガスは花粉症の誘因になるそうです。

とにかく「快食、快眠、快便」

講義の後、いくつか質問（健康相談？）がありました。

Q:薬を飲み続けても大丈夫？

A:薬は化学物質です。作用があれば副作用も必ずあります。短期間で早く止めるのが原則です。

Q:硬い靴と体調との関係は？

A:大事なことです。膝や腰のためにもスニーカーなどかかとの柔らかい靴がいいでしょう。

Q:「24時間都市」ということで人間の生活スタイルが夜型になっていますが・・・

A:非生理的です。人間の体外リズムはお天道様とともにあるのです。

Q:健康に関する情報が氾濫して、人間は健康に対して過敏になりすぎていませんか？

A:健康のために勉強して下さい。とにかく、朝ご飯をしっかり食べて、出すモノを出したらよく歩いて、夕食は寝る3時間前に済ませること。とくに、背の青い魚のタンパク質をとって、野菜・果物を食べ、タバコと砂糖を控えるだけで良いのです。

健康のための努力

健康になるには、努力が必要のようです。「食べる、出す、寝る」私はどれも、快適にこなしています。これからも健康のためにと余り気張らないでいこうと思います。ただ、自動車の排気ガスは困ります。地域計画の仕事の中で「いかに自動車を減らし、環境を守るのか」勉強し、努力していきたいと思いました。（大阪事務所 さの きみこ）

お知らせ

都市居住文化研究所が、新年より移転しました。一緒に仕事をしている丹後リゾート総合企画（株）（京都府などの第3セクター）と同じビル内です。六角堂の近くで、京都事務所からも歩いて数分のところですよ。

新住所：京都市中京区東洞院通六角上ル
三文字町225 朝陽ビル4階
TEL (075) 252-2231

編集局より

- 前号で紹介しました「ため池フォーラム」は、おかげさまで多数の方々の参加を得、ため池を見直す気運が盛り上がりました。ありがとうございました。
- 昨年末、当社で設計をさせていただいた久保本社ビル（京都市）が第29回京都デザイン大賞コンペ'90において入選しました。設計の詳しい内容は次号でご紹介させていただきます。

- しばらく休んでおりました「うまいもの通信」と新しい企画の「泰さんのあんな京都こんな京都」を本号より連載化いたします。乞うご期待。
- 昨年はニューズレター編集局も局員の交代、編集方法の改善など、新たな試みを進めてきました。今年も昨年以上にがんばっていきましょうと思います。どうぞよろしくお願ひします。

うまいもの通信⑤

「うまいもの通信」連載化によせて

山村幸治・高橋はるみ

今回は健康特集ということですが、食べものがおいしく、かつ楽しく食べられることは、健康であることのひとつの証明だと言えます。いろいろなおいしいものを食べるという最近のグルメブームは、豊かな時代の反映とこのような健康指向がベースにあるようです。

いろいろなおいしいものといえば、少し前の話になりますが、昨年7月の大阪事務所移転披露パーティーにおいて、各地の特産品を集めて皆様に召し上がっていただくという企画を行いました。その特産品は、各事務所の所員が、そのまちづくりの中でめぐり合った味をはじめ、各所員の居住地、ふるさとの自慢の味などを、各地の方々の御協力を得ながら集めたものです。

それらは、事務所の一角につくられた「特産品コーナー」に展示されました。種別と数量は、名水6、酒14、すし3、ツマミ27、漬物6、菓子9、その他11の計76で、やはりと言うべきか以外と言うべきか、酒、ツマミが多く、これらは特産品の代表と言えます。また、それぞれの特産品には地域名と簡単なコメント（言われや所員の推薦の弁等）を書いたプレートを添えました。パーティーに来ていただいた方は、出身地のものがあるとプレートに書かれたこと以外の説明を隣の方に

されたり、以前召し上がったことがあると、そのときのお話をされたりで、コーナーはなごやかな雰囲気となりました。

今回このような場を設定できたことは、アルパックがこれまでに多くの人や地域と関わりを持ってきた証拠であるようです。健康指向の現われである「食」(特産品)によって、これからもアルパックのネットワークが広がればと思います。そこで、うまいもの紹介ということで、パーティーで集められた特産品を中心に、順次御紹介していききたいと思います。

(大阪事務所 やまむら こうじ)
" たかはし はるみ)

鹿児島の特産品

紹介 桃 蘭 和 徳

「翔ぶが如く」で最近注目を集めている鹿児島の特産は、桜島と薩摩半人と言いたいところですが、今回は薩摩半島の地元でしか手に入らない旨いものをご紹介します。

酒は、東シナ海に面した吹上浜で造られた「西海の薫」で、舌先にほのかな旨みが漂います。肴には、鰹の内臓から造った塩辛と、鰯をふんだんに使って造ったツケアゲを。口直しには、桜島の溶岩を模して造った溶岩糖がよろしいかと思ひます。

どの品物も、地元の特別な店でしか手に入らない時代となっていました。中でも、溶岩糖は現在は造られておらず、地元のお菓子屋さんで特別注文をしなければなりません。

(京都事務所 ももぞの かずのり)



チキ：西海の薫（焼酎）…2,250円／本
鰹の塩辛…700円／びん
ツケアゲ（薩摩揚げ）…1,350円／箱
溶岩糖（砂糖菓子）…30円／個

問い合わせ先はいずれも

(株)山形屋 買物相談課

鹿児島市金生町3-1 TEL 0992-27-6111

新刊旧刊書評紹介

築田多吉著 研数広文館刊

「家庭に於ける実際の看護の秘訣」

紹介 重本幸彦

“赤本”と呼ばれる隠れたベストセラー

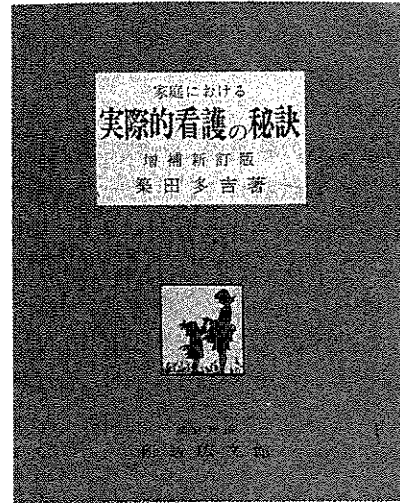
表紙が赤いことから俗に“赤本”と呼ばれて来たこの本は、大正14年（1925年）の初版以来、千数百版を重ねており、民間療法の集大成あるいは古典といえる本である。出版元によると、昭和30年から内容的には変わっていないが、今でも年に数千部は売れているという。隠れたロングベストセラーである。

10年ほど前、この本を最初に手にした時は「こんな古い本が、いまだに売られているのか」と、その見かけには少々驚かされた。

ところが、この本に書かれているとおりにやってみるとなかなか効果がある。例えば、子供がお多福風邪の時、この本に従って、浣腸（かんちょう）と芋シップをしてやると、あまり熱も出さず軽く済んだなどの経験をした。豊富な体験に基づく具体的な記述

著者は、旧海軍の衛生大尉として軍人家族の世話係をやり、その医学知識と多くの人々から集め自ら確認した実体験に基づいて、この本をまとめたようである。

ちなみに、この本の歯槽膿漏の根治法の所では、「・・・二本の指で歯グキを内外から挟んで（順番に全体を）強く圧迫するのです、・・・其跡には新しい血液が来るから白血球の為に・・・炎症も痛みも膿も止まっています」とある。要するに、指圧で血行を促せということで、現在では歯ブラシを使った歯グキのブラッシングなどによる治療方法が確立しつつあるが、予防法としては、この指圧法が直接的であり効果的に思える。私自身、忙しくて歯医者に行けない時、この方法で歯



痛を治した経験を持っている。

この例のように、この本の記述は、確信に満ちて端的で具体的である。この種の本にままたる自らの方法が何でも万能だという一方的な記述ではなく、その限界にも触れている。時代を超えた健康づくり研究の書として

死者（仮死？）の蘇生法や長寿法なども書かれており、命と健康に対する著者の執着が感じられる。書かれていることは当時の医学水準に応じて正確だと思うし、時代を超えた著者の卓見にしばしば感心し納得する。

今の日本では、多くの人々が薬や医者をおまわりにも頼りにし、健康に対し受け身である。自らの健康を自ら作り出す“健康づくり”を「研究」している人が、この赤本を読めば、興味ある多くのヒントを得るだろうと思われる。価格は3,000円です。

（大阪事務所 しげもと さちひこ）

まちかど

「見る」ことにこだわる水族館

伊坂善明

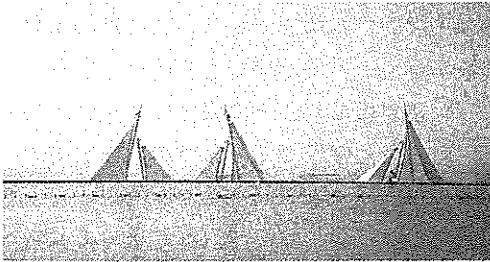
昨年は、水族館ブームの1年でした。

その火付け役は、東京都が江戸川区につくった「東京シーライフパーク」と言われています。東京ディズニーランドにほど近い葛西臨海公園の中につくられています。

この水族館の特徴は、一言で言えば「見る」ということに徹底的にこだわったところにあると思います。ゲートをくぐって、水族館の前に立ってまず驚かされるのが東京湾の水平線と一体となったような錯覚を与える人工の池です。間に見えるヨットの帆先が錯覚の効果をあげています。実は、この池は建物の屋根の部分につくられたもの、ヨットの帆先は館内の休憩所のテントの上部だったことが全部を見終わってはじめてわかるというしかけです。

また、館内の展示は、ほとんど全て複数の

東京湾と一体に見える屋上の人工池



水槽も上、下から見えるような工夫がしてある



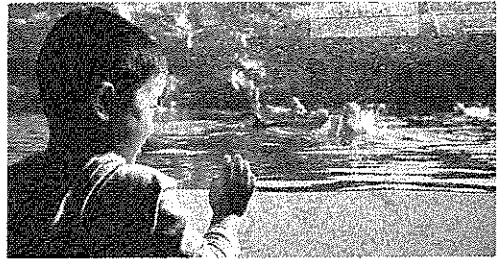
視点から見るように工夫されています。正面から眺める水槽と上部や下部から眺める水槽では、ずいぶんと印象が違うものです。特に、屋外にあるペンギン園は成功しています。広場の地下に設けられたガラス窓から、ペンギンの泳ぐ姿が目の前で見えます。来ている子供たちもおおはしゃぎするほどです。

昨年の水族館ブームは、実は日常の中に非日常といった違う「見え方」が、受けた理由なのかも知れません。

今年は、どこのどんな「まちかど」でおもしろい「見え方」が楽しめるでしょうか。

(京都事務所 いさか よしあき)

ペンギン園の地下に設けられたガラス窓



アルパック (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

本 京 都 事 務 所	☎600	京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82 (大和銀行京都ビル8階)	TEL (075) 221-5132(代) FAX (075) 256-1764
大 阪 事 務 所	☎540	大阪市中央区城見1-4-70 (住友生命OBPプラザビル15階)	TEL (06) 942-5732(代) FAX (06) 941-7478
名 古 屋 事 務 所	☎460	名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 (ツボウチビル2階)	TEL (052) 962-1224(代) FAX (052) 962-1225
東 京 事 務 所	☎160	東京都新宿区新宿2-5-16 (霞ビル401号)	TEL (03) 3226-9130(代) FAX (03) 3226-9560
九 州 地 域 計 画 研 究 所	☎810	福岡市中央区天神1丁目15番1号 (日之出ビル6階)	TEL (092) 731-7671(代) FAX (092) 731-7673
関 東 地 域 計 画 研 究 所	☎540	大阪市中央区石町1丁目1番1号 (天満橋千代田ビル2号館9階)	TEL (06) 943-7016 FAX (06) 943-7026
神 奈 川 地 域 計 画 研 究 所	☎604	京都市中京区東洞院通六角上ル 三文字町225 (朝陽ビル4階)	TEL (075) 252-2231